研究発表

昭和30年調査

福井県下に見る野鳥

林　武雄

筆者は昭和20年頃より自宅（今立郡粟田部町）を中心とする福井県下各地の野鳥の棲息分布状況について調査を進めてきたが、その間約50回に及ぶ調査記録および日本野鳥の会福井支部会員等の報告資料に基き県下において記録された野鳥の一部を茲に報告したいと思う。

県下における野鳥の棲息分布状況は未だ公けにされたものがないし。その一部を除いては殆んど知られていない現状にある。

近年、森林の開発や人口増加に伴い野鳥の棲息地は次第に狭められ、加えて農薬等の化学肥料使用による被害や放射能に迄もその生存が脅かされていると言われている現在、その調査研究は鳥類保護運動と相俟って極めて重要な事ではないかと考えられるのである。

この調査は前記の通り筆者自身の記録によるもののほか、確実な資料によるものも含まれているが調査が勤務の余暇という限られたものであるから自然、自宅周辺にその重点がおかれている事が結果的に言える。又、嶺南地区には残念ながら調査の機会が少なかつたので今後の精査にまつところが多い。従って下表の分布、棲息環境等には幾分差異もある事と思うし勿論完成されたものではないので調査粗漏も多く今後の調査によつて追加訂正を加えてゆきたいと思う。大方の御叱正によつてこの調査を更に確実なものにしたいと思う。もとより浅学菲才、素人なるが故に諸賢の御教示にまつ処多いが盲蛇に怖しずの例によりこの拙ない調査記録を報告する次第である。

番号	目	科	鳥名	渡り	繁殖	分布	棲息環境	摘要
1	燕雀目	鴉科	ハシブトガラス	留	○	多	村	
2			ハシボソガラス	留	○	多	村	
3			オナガ	留		少	村	
4			ホシガラス	留		少	亜	
5			カケス	漂	○	普	森	一部留鳥
6		椋鳥科	ムクドリ	漂	○	多	村	一部留鳥
7			コムクドリ	夏		少	村	
8		雀科	スズメ	留	○	多	村	
9			ニウナイスズメ	冬		少	森	新潟県では一部繁殖しているという。

(研)

番号	目	科	鳥名	渡り	繁殖	分布	増減	摘要
○ 10		鳧鷸科	カラフトシメ	迷		稀	森	昭和26.11.17. 採取一例
11			シメ	冬		少	森	昭和30.5. 池田村冠山において明らかに本種と思われる鳴声を聞いたので夏季滞在する個体があると考えられる。
12			イカル	漂	○	普	森	一部留鳥
13			オオカワラヒワ	冬		普	森	
14			コカワラヒラ	留	○	多	村	繁殖期には見られない事が多い。
15			マヒワ	冬		多	森	は
16			ベニヒワ	冬		少	森	
17			ベニマシコ	冬		少	森	
18			アカウソ	冬		少	森	
19			ウソ	冬		普	森	
○ 20			オオマシコ	冬		稀	森	本県産のものを標本として所有している。
21			イスカ	冬		少	森	年により殆んど渡来を見ないことがある。
22			アトリ	冬		多	森	
○ 23			ハギマシコ	冬		少	森	稀にベニマシコ等の群に混つて渡来したものを捕獲された
24			ミヤマホオジロ	冬		少	灌	
25			アオジ	漂		普	灌	じじゅりん?
26			ノジロ	漂		少	灌	
27			ホオジロ	留	○	多	灌	
28			ホオアカ	漂		少	草	
29			カシラダカ	冬		多	灌	
30			クロジ	冬		少	森	
31		雲雀科	ヒバリ	漂	○	普	草	
32		鷸鴴科	タヒバリ	冬		少	水	
33			ビンズイ	漂		普	灌	秋季および春季に見られる。
34			セグロセキレイ	留	○	多	水	
35			キセキレイ	漂留	○	多	水	繁殖中でも案外滞在するものが多いが大部分は暖冬地に去るらしい
36		繍眼児科	メジロ	漂	○	多	森	一部留意
37		四十雀科	シジウカラ	留	○	多	森	花園公園に架設した巣箱には本種が最も多い。
38			ヤマガラ	留	○	多	森	
39			コガラ	留		少	森	
40			ヒガラ	留		普	森	
41			エナガ	留	○	普	森	
42			キクイタダキ	漂		普	森	じじゅうから

番号	目	科	鳥名	渡り	繁殖	分布	生息環境	摘要
43		鴨科	モズ	留	○	普	村	
44			チゴモズ	夏		少	森	
45			アカモズ	夏		少	海	
46		鷸鴴科	キレンジャク	冬		少	森	
47			ヒレンジャク	冬		少	森	
48		鶫科	ヒヨドリ	漂留	○	多	森	秋季10-200羽位の群を見る.
49		山椒喰科	サンショクイ	夏	○	普	森	
50		鶺鴒科	サンコウチョウ	夏	○	少	森	
51			コサメビタキ	夏	○	普	森	
52			エゾビタキ	夏		少	森	
53			サメビタキ	夏		少	里	
54			ムギマキ	旅		少	森	秋季目撃した. 標本所有.
55			キビタキ	夏		普	森	
56			オオルリ	夏	○	普	森	
57		鶲科	メボソムシクイ	夏		少	里	秋季人家附近で見られることが多い.
58			センダイムシクイ	夏		少	森	
59			ウグイス	漂	○	普	海	一部留鳥である.
60			ヤブサメ	夏		普	森	
61			オオヨシキリ	夏	○	普	水	
62			コヨシキリ	夏	○	少	草	
63		鶫科	トラツグミ	留	○	少	森	
64			マミジロ	夏		少	森	
65			クロツグミ	夏		少	森	
66			シロハラ	冬		多	森	
67			マミチャジナイ	冬		普	森	
68			アカハラ	夏		少	森	
69			ハチジョウツグミ	冬		稀	森	
70			ツグミ	冬		普	森	
71			イソヒヨドリ	留	○	普	海	
72			ノビタキ	夏		少	草	
73			ルリビタキ	漂		少	森	秋冬季のみ低地で見られるが完全な色彩の个体は稀で多くは幼鳥型である.
74			ジョウビタキ	冬		少	村	
75			ノゴマ	旅		稀	森	秋季採取されたことがある.

エゾビタキ

(研)

番号	目	科	鳥名	渡り	繁殖	分布	県内飛来	摘要
76			コマドリ	夏		少	森	
77			コルリ	夏		少	森	
78		鶲科	ミソサザイ	漂	○	普	森	
79			カワガラス	留	○	普	水	
80		燕科	ツバメ	夏	○	普	村	
81			コシアカツバメ	夏	○	普	村	本県には普通であるが関東では稀で新潟県でも少数しかいない。
82			イワツバメ	夏		少	村	春.秋の渡来期に見られるが夏季は少数しか見られない
83		南蛮科	アマツバメ	夏		少	里	
84	怪鵐目	怪鵐科	ヨタカ	夏		普	湿	
85	佛法僧目	佛法僧科	ブッポウソウ	夏	○	稀	森	世間で騒がれたブッポウソウはコノハズクであるが本種が県内に渡来することは余り知られていない。
86	翡翠目	翡翠科	カワセミ	留	○	普	水	
87			アカショウビン	夏		少	森	やまやみ
88	啄木鳥目	啄木鳥科	アオゲラ	留		少	森	おおあかげら
89			アカゲラ	留		普	森	35.10.何野
90			コゲラ	留	○	普	森	
91	杜鵑目	杜鵑科	カッコウ	夏		少	森	
92			ツツドリ	夏		少	森	
93			ホトトギス	夏		少	森	
94			ジュウイチ	夏		少	森	
95	梟鴟目	梟鴟科	オオコノハズク	留		少	森	
96			コノハズク	夏		少	森	本種がブッポウソウと鳴くもので本県では珍らしいものではない。
97			アオバズク	夏	○	普	森	
98			フクロウ	留	○	普	森	
99	鷲鷹目	隼科	ハヤブサ	冬		少	水	ちごはやぶさ
100			コチョウゲンボウ	冬		少	湿	ちょうげんぼう
101		鷲鷹科	ノスリ	留		少	森	おじろわし
102			クマタカ	留		少	森	いぬわし
103			オオタカ	漂		少	森	はちくま
104			ハイタカ	漂		少	森	
105			ツミ	漂		少	森	
106			トビ	留	○	普	村	
107			オオワシ	冬		稀	海	
108			サシバ	夏	○	普	森	

とき科

(研)

番号	目	科	鳥名	渡り	繁殖	分布	種危機現	摘要
109		鶴科	ミサゴ	漂		少	海	
○ 110	鶴目	鶴科	コウノトリ	迷?		稀	水	東下に毎年渡来するというが詳細は判然としない
111		鷺科	アオサギ	夏	○	多	水	とき科 とき
112			チウダイサギ	夏		少	水	
113			チウサギ	夏	○	普	水	
114			コサギ	夏留	○	多	水	
○ 115			クロサギ	留漂		少	海	南方系の鳥で日本海側の北限は鳥取県であった。しかし最近、新潟県で発見されている。
116			ササゴイ	夏		少	水	
117			ゴイサギ	留夏	○	多	水	あまさぎ
118			ミゾゴイ	夏		少	森	
119			ヨシゴイ	夏		少	水	
120	雁鴨目	雁鴨科	オオヨシゴイ	夏		少	水	
121			オオハクチョウ	冬		少	水	さがつらがん
122			マガン	冬		少	水	かりがね
123			ヒシクイ	冬		少	水	ほくがん
124			マガモ	冬留		普	水	おおひしくい
125			カルガモ	留		普	水	本県で繁殖する可能性がある
126			コガモ	冬		普	水	つくしがも
127			ヨシガモ	冬		普	水	ともえがも
128			オシドリ	留		少	水	おなががも
129	全蹼目	海鵜科	カワウ	漂		少	海	ひどりがも
130			ウミウ	漂		少	海	はしびろがも
131			ヒメウ	漂		少	海	しまあじ
○ 132	管鼻目	水薙鳥科	オオミズナギドリ	漂		稀	海	ほしはじろ
133	阿比目	鳩科	カイツブリ	留	○	普	水	きんくろはじろ
134		阿比科	アビ	冬		普	海	すずがも
135	鴇鶴目	鴇鶴科	キシバト	留	○	多	村	くろがも
136			アオバト	漂		少	森	せぐろみづなぎどり
137	鶴目	鶴科	イソシギ	留		少	水	積雪氷結期には見られない
138			アオアシシギ	旅		少	水	しのりがも
139			ハマシギ	冬		少	水	かわあいさ
140			ヤマシギ	漂		少	森	うみあいさ
141			タシギ	冬		普	水	

たかしやくしぎ
ほうろくしぎ3i-
うづらしぎ

(所)

番号	目	科	鳥名	渡り	繁殖	分布	棲息環境	摘要
142			オオジシキ	夏		普	草	
143			タマシギ	漂		少	水	
144		千鳥科	シロチドリ	留		少	水	
145			コチドリ	留	○	普	水	
146			イルカチドリ	留	○	普	水	
147	鴫目	鴫科	コアジサシ	夏		普	水	
148			セグロカモメ	冬		少	海	
149			カモメ	冬		普	海	
150			ウミネコ	漂		普	海	
151	鴫目	鴫科	ノガン	迷		稀	村	過去において飛来された事が伝えられ現在も迷鳥として出現することがあるらしい。
152		鴫科	タンチョウ	冬?		稀	水	
153		秧鶏科	ヒクイチ	夏	○	普	水	
154			バン	夏	○	普	水	
155	鶴鶏目	雉科	ウズラ	漂		少	草	
156			キジ	留	○	多	雑	
157			ヤマドリ	留	○	多	森	
計 18目 42科 157種								

19 ブロスメタ 44 187

説明

1. 分類、日本鳥類大図鑑による。
2. 参考文献、日本鳥類大図鑑、野鳥ガイド。
3. 「渡り」（夏）とあるのは夏鳥で春季南方より渡来、本州で繁殖し秋季南方に去るもの。（留）は留鳥で年中を通じて棲息地に著しい差異のないもの。（冬）は冬鳥で北海道以北で繁殖し秋季本州に渡来、翌春北方に去るもの。（漂）は漂鳥で、季節的に多少棲息地を変えるもの、例えばヒバリの如く積雪期のみ暖冬地に去るといったもの。（旅）は旅鳥でその名の如く春と秋、内地を通過し繁殖地と越冬地との間に渡り内地で繁殖も越冬もしない種類。（迷）は迷鳥で渡りの途中暴風雨に吹きとばされたり、近似種に混じって偶然渡来したもので珍種である。
4. 「繁殖」 ○印のものが繁殖を確認した種類であるがこの外確実に繁殖すると思料されるものもあるが含まれていない。
5. 「分布」 資料により最も多く目撃された順に（多、普、少、稀。）に分類した。
6. 「棲息環境」 棲息環境を確然と区別する事は困難であるが便宜上主として一番多く目撃された環境を記載した。（村）は村落附近である。（森）は森林で 5米以上の雑木林から10数米以上の喬木を含む密生、疎生林。（湿）は湿木林で高くと

も々5米近の灌木である．（草）は草原で荒地、開拓地等の草の繁茂する開けた地、（亜）は亜高山で本県では1400～1500米以上の山帯である．

7．調査研究の未熟から、海鳥、雁鴨目、鶴目、鷲鷹目、については表のほか明らかに棲息すると考えられるものが多いが残念ながら記載出来なかった。

博物館の珍らしい鳥類について

東谷　薫

からふとしめ

昭和30年10月30日農野庁猟政調査課の三島冬嗣技官が来館され「しめ」の標品について普通の「しめ」とは少しちがうとの事で本庁に持ち帰られ調査の結果「からふとしめ」だということがわかりました．

昭和26年11月20日南條郡河野村河野で捕獲したものです．

「からふとしめ」については、湖山徳太郎氏が鳥取県で獲れた雌の一標品と北海道石狩産の雄二標品があるのみで我が国で3回目、4羽目の貴重品である事がわかりました．

のがん

11月10日には丹生越廼村浦生で「とび」3羽と格闘して傷ついていた「のがん」を川崎治助氏が生け捕り博物館に寄贈して呉れました．「のがん」についてはこれまで1、2、3回の報告がありますが終戦後は第2回目の捕獲となっています．18日に死亡しましたので剥製標本としました．

おおみづなぎどり

11月12日福井市酒伊精錬の構内で京都府冠島に棲息し、天然記念物に指定されている．「おおみづなぎどり」を捕獲寄贈されました．

こおのとり

12月6日坂井郡鶴村波寄の分村一居氏が坂井郡浜四郷村地蔵で「こおのとり」を生け捕りにして寄贈してくれました．負傷していたので傷の手当をし、雪どけと共に兵庫県へ帰そうと思っていましたが翌31年1月20日死亡しましたので剥製標本にしました．

「こおのとり」は我が国では兵庫県出石郡の一部にのみ棲息し天然記念物に指定されているものです．